

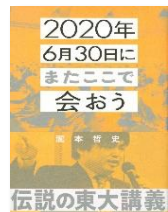
としょあんない 7 月



栃木県立栃木高等学校
図書委員会
令和2年7月30日発行

《先生と図書委員が選んだお薦めの本》

大川 直邦校長先生



『2020年6月30日にまたここで会おう 瀧本哲史伝説の東大講義』 瀧本哲史 著

2019年8月10日、47歳の若さで亡くなった瀧本氏。昨年2学期始業式、追悼の思いを込め、著書「ミライの授業」を紹介した。彼は若者世代である「君たち」にずっとメッセージを送り続けてきた。紹介する本は、2012年に東大伊藤謝恩ホールで行った講義を1冊にまとめたもの。参加資格を29歳以下に限定した講義に、全国から約300人の10～20代が集結した。2時間にわたる講義の内容が収められている本だ。「8年後の今日、6月30日にここに再び集まり、みんなで『宿題』の答え合せをしよう」と講義の最後に呼び掛けた。今年の6月30日、当時の講義内容がYouTubeで再現された。

当時10代・20代だった人だけでなく、多くの人に読んでほしい。タイトルをみるだけでは、いったい何の本だかわからないかもしれない。2012年に行われた講義をまとめた本のはずなのに、この本は20年代を生きるために必要な「武器」(瀧本キーワード)を与えてくれる本になっている。胸を熱くさせてくれた本だ。彼は日本への危機感から本を書いていた。「武器モデル」を広めていくことで、日本をよくしていくことができるのではないかと考えていた。「武器モデル」は、世の中を変えそうな人をたくさんつくて、誰がうまくいくかはわからないが、そんな人たちに「武器」を与え、支援する活動をしていくモデルのことだ。

「誰かすごい人がすべてを決めてくれればうまくいく、という考えは嘘で、『みな自分が考え自分で決めていく世界』を作っていくのが、国家の本来の姿なんじゃないかと僕は思っています。」と、彼は言う。緊急事態宣言による自粛要請が解除されたいま、この言葉はとても胸に響く。彼は、「自分で考えてない人は、人じゃない」とも言っている。だから、自分で考え、決めるための「武器」をばらまくのだと。彼の答えは単純明快だ。「自分の人生は自分で考え、自分で決め、そして行動せよ」なのだ。

長谷川 剛教頭先生

『数学に感動する頭をつくる』

栗田哲也 著



著者は「音感と同じように、数学が得意という人には数感とも言うべき感覚が備わっている」といい、数学に上達したいのならば「数感」を開発することを勧めている。「数学力」と一括りにできるものは存在せず、計算力、記憶力、イメージ力、発想力、推理する力、工夫する力、構想力、位置づける能力、洞察力、自己反省能力など様々な能力がある。「(自分の目的に合わせて)そうした個々の能力を地道に開発する方法はある。そのような地道な努力を繰り返すと、ある期間に突然数学の力が飛躍的に向上したように見えるものだ。」「子どもをプールに入れなければ、いつまで経っても泳ぎを覚えないのと同様に、子どもを応用力の要る問題の海に放り込まなければ、いつまで経っても数学が上手にならない。」「日本の子どもたちを見て、特に数学で一番できないことは、ちょっとした工夫です。また、自分の力で長時間考えることです。」「よい教師は生徒に考えさせ、悪い教師はわかりやすく教える。」

一般レベルからいえば数学ができる子ばかりの中でも、ぐんぐん伸びていく子と急に伸びが止まってしまう子とはっきりと分かれてしまう。例えば、次の問題は2001年東大文系の問題であるが、これを中学1年生が比喻(たとえ話)を使って解いている(!)(皆さんも解いてみましょう。)解ける人と解けない人の違いは何だろうか。

<問題>:白石180個と黒石181個の合わせて361個の碁石が横一列に並んでいる。碁石がどのように並んでいても、次の条件を満たす黒の碁石が少なくとも一つあることを示せ。”その黒の碁石とそれより右にある碁石をすべて除くと、残りは白石と黒石が同数となる。ただし、碁石が一つも残らない場合も同数とみなす。”

いわゆる数学ができる人たちが無意識に行っているであろうものの見方や考え方が垣間見えるのだが、理解を他の知識とびつけて体系的に理解することの大切さというのは数学に限らず有効である。「私が教えてきた経験から、できる生徒は数学的能力の中でも特に2つの能力が発達していることに気がついた。

… 数学の力は簡単には伸びないが、急がば回りで、時間をかけて能力開発をしていけば、必ず誰でも数学の面白さ美しさに目覚めるときが来る。」

「これから『正義』の話をしよう いまを生きるための哲学」

マイケル・サンデル著

「正義」そう聞くと疎遠だなと感じる人もいますが、この本では身近な例を用いて各々の考え方に触れていきます。ハーバード白熱教室で有名な著者による生きるための哲学！ぜひ読んでみてください！

3年1組 高橋 一誠

「また、同じ夢を見ていた」 住野よる 著

少女の作文のような文体でありながらも、丁寧に言葉が紡がれていて、主人公の気持ちが痛いほどよく分かった。賢くて真っ直ぐな少女の言動に、クスッと笑ってしまいながらも、幸せとは何か、自分なりに考えさせられる。「君の脾臓を食べたい」の作者とは知らずに読んだ。映像で、君の脾臓を食べたいも観たことがあるが、本も読んでみたくなった。 3年1組 永井 翔大

「面白くて眠れなくなる化学」 左巻建男 著

この本は「面白くて眠れなくなる〇〇シリーズ」の一冊です。この本では、身近にあるもので化学と関連していることがわかりやすく掲載されています。今まで習ってきたことが身近なところで使われていることを知ると、化学への関心が深まること間違いなしです。化学が苦手な人でもわかりやすい解説文なので理系文系問わずおすすめです。

3年2組 大淵 主真

「言の葉の庭」 新海誠 著

鳴る神の少し響みてさし曇り雨も降らぬか君を留めむ。新海誠監督の作品の中でも特に人気の高い作品である「言の葉の庭」。靴職人を目指す高校生のタカオは雨の日に登校を1時間遅らせる習慣があり、その時立ち寄る公園のベンチで、タカオの学校の教師であり、出勤拒否を続けている謎めいた女性ユキノと出会う。迷いながらも前に進もうとする2人はどのような道を歩いていくのか？梅雨の季節の忠実な表現も読みどころです！

3年2組 戸口 昇太

「数学ガール ガロア理論」 結城浩 著

この本では、ガロア理論という五次以上の方程式に解の公式が存在しないことを示すために使われた理論を噛み砕いて理解していくという内容になっています。その道の途中ではあみだくじについて考えたり、三次方程式の解の公式を導いたり、数学の抽象化、一般化の面白さが体験できるものとなっています。また特徴的なこととして登場人物同士の対話の中で話が進行することです。それぞれの人物の数学に対する向き合い方を楽しみながら、数学を深く学べる一冊になっています。 3年3組 出井 友章

「小さいことを気にしなくなる宇宙の本 マイウェイムック」 開発社 著

科学のおもしろさが実感できる方法のひとつに、「こうなったらどうなるだろう？」と想像する思考実験があります。この本は10編の思考実験を通じて、地球や太陽系の成り立ち、重力とは何かという物理の原理、さらには生命や人間のあり方まで語っており、もし月がなかったら、地球ははたしてどうなっていたのか？もし地球が今よりも太陽にほんの少しだけ近かったら、どうなっていたのか？といったとても好奇心くすぐる話が、全部で九つほどあります。最後の1章では、現実の世界についてうまくまとめており、非常に面白い本です。ぜひ一度読んでみてください。 3年3組 山田 泰成

「1日1ページ読むだけで身につく世界の教養」 デヴィッド・S・キダー 著

皆さんは1日1ページ読むだけで、世界レベルの教養が身につくという本に興味はありますか？この本は人物・文学・音楽・映画・思想と社会・スポーツ・大衆文化の7分野、計365個のトピックについての細かい説明や「豆知識」が大体3つずつ書かれています。それなりに分厚い本ですが、1日1ページと考えるとそんなに苦ではありません。読みごたえのある本なのでぜひ読んでみてください。ただし、図書室で借りる際には返却期限を忘れずに。 3年4組 星野 颯杜

「君の友達」 重松清 著

僕は重松清の「君の友達」という本をおすすめします。この本は短編の小説が10作品載っている本ですが、そのなかでも特におすすめな作品は「ねじれの位置」です。この話は俗に言う”できる子”のブンが、そのブンよりさらに”できる子”の転入生のモトと出会い、ぶつかりながら成長する話です。重松清の得意とする登場人物の人間らしさが存分に現れていて、感情移入がとてもしやすいので、是非読んでみてください。

3年3組 菱沼 修平

「集中力を高める技術」 西田昌規 著

僕は集中力が欠けていると感じることが多いです。だから、この本を読んでもみることにしました。この本では、集中力を高めるための方法がたくさん、そしてわかりやすく書かれています。たとえば、集中しなければならない作業に締め切りを設けて、注意力のホルモン、「ノルアドレナリン」を活性化させたり、逆に、長時間の作業を避けて、ノルアドレナリンを使いすぎないことで、脳や体の疲弊を防いだりすることなどが書かれています。集中力をつけないと思っている人は読んでみてください。 3年4組 宇野 秀太郎

図書室から

★夏休み特別長期貸出について

貸出開始 7/17(金)から

貸出冊数 制限なし

返却期限 8/17(月)始業式

「夏休み推薦図書」の冊子を配布します。

また、図書館に特設コーナーを設置しますので是非利用してください。

夏休みを利用してたくさん本を読みましょ。

※夏休み中は図書館「閉館」になります。

新着図書一覧 2020/4/14～7/7

【図書トピックス】 夏休みおすすめ図書順次購入しています！ 第163回直木賞・芥川賞受賞作品もあります！

410 マ	快感数学ドリル	間地秀三	936 ア	キャパとゲルダ	マーク・アロンソン、マリナ・ブドーズ
801 カ	音読で外国語が話せるようになる科学	門田修平	498 フ	強制不妊と優生保護法	藤野豊
445 ナ	地球は特別な惑星か？	成田憲保	498 オ	どうする？新型コロナ	岡田晴恵
423 タ	「ファインマン物理学」を読む	竹内薫	222 ダ	陸海の交錯	壇上寛
450 ス	地磁気逆転と「チバニアン」	菅沼悠介	361 コ	マックス・ヴェーバー	今野 元
007 カ	高校数学からはじめるディープラーニング	金丸隆志	210.6 キ	紫外線の社会史	金凡性
445 ウ	大陸と海洋の起源	アルフレッド・ウェゲナー	312 ス	議会制民主主義の活かし方	糠塚康江
817 ム	読解力を身につける	村上慎一	141 ク	繊細すぎてしんどいあなたへ	串崎真志
601 ヨ	きみのまちに未来はあるか？	除本理史	452 フ	見えない絶景	藤岡煥太郎
486 ハ	博士の愛したジミな昆虫	金子修治 鈴木紀之 安田弘法	467 タ	生命はデジタルでできている	田口義弘
314 ヤ	有権者って誰？	藪野祐三	412 サ	有限の中の無限	西来路文朗
222 フ	草原の制覇	古松崇志	407 サ	理系の文章術	更科功
911 オ	大岡信『折々のうた』選	水原紫苑	135 イ	贈与論	岩野卓司
911 オ	大岡信『折々のうた』選	蜂飼耳	389 モ	贈与論	マルセル・モース
371 ホ	教育は何を評価してきたのか	本田由紀	954 ハ	呪われた部分	ジョルジュ・バタイユ
333 ミ	世界経済図説	宮崎勇	255 シ	ラテンアメリカ五〇〇年	清水透
547 モ	5G	森川博之	913.6 ナ	合唱	中山七里
367 フ	「勤労青年」の教養文化史	福岡良明	913.6 ツ	暗鬼夜行	月村了衛
019 ヤ	人生の1冊の絵本	柳田邦男	913.6 ナ	逃亡者	中村文則
374 メ	迷走する教員の働き方改革	内田良	913.6 ア	パラゾ	阿川せんり
369 サ	3.11を心に刻んで2020	岩波書店編集部編	019 ヨ	明日の自分が確実に変わる10分読書	吉田裕子
395 オ	沖縄を世界軍縮の拠点に	豊下梢彦	019 オ	マンガでわかる東大読書	小野洋一郎
367 サ	新版	斎藤環	912 タ	ある日、ぼくらは夢の中で出会う	高橋いさを
367 カ	介護保険が危ない！	上野千鶴子	913.6 イ	逆ソクラテス	伊坂幸太郎
105 ケ	現代思想		913.6 ト	夕焼けポスト	ドリアン助川
974 ジ	コロナの時代の僕ら	パオロ・ジョルダノ	913.6 ハ	猫君	畠中恵
493 ク	人類対新型コロナウイルス	トム・クイン	159 ミ	言語化力	三浦崇宏
973 ジ	素数たちの孤独	パオロ・ジョルダノ	329 オ	2030年の世界地図帳	落合陽一
913.6 ヤ	廉太郎ノオト	谷津矢車	913.6 モ	できない相談	森絵都
933 モ	フラミンゴボーイ	マイケル・モーパーゴ	913.6 シ	きみの友だち	重松清